

第5回全国大会の成果と今後に向けて

藤本 登 (長崎大学)

第5回全国大会が7月31日～8月2日の日程で、長崎大学教育学部に於いて開催され、会員約110名、一般約140名、合計約250名の参加者を得ることができました。本大会では、「エネルギー環境教育の定着に向けた地域力の活用」をテーマに、会員による一般発表(口頭発表70件、ポスター発表9件)及びワークショップ(5件)と共に、生物生態写真家 栗林慧氏による特別講演「生物の目から世界を考える」、三菱総合研究所副社長執行役員 中原豊氏による基調講演「持続可能な社会への移行シナリオー高齢化社会、資源・環境問題と日本の役割ー」、パネルディスカッション「エネルギー環境教育における地域力の活用」が開催され、活発な質疑応答が行われました。以下に、本大会の成果と今後の課題について纏めます。

○本大会の成果

本大会は7名の実行委員と9名の協力者によるコンパクトな運営で実施され、2回に準備会議(1/21と2/10)と4回の実行委員会(4/12、5/31、6/7、7/5)が開催されました。近年18名程度で構成される実行委員会より

小規模でしたが、例年と遜色ない運営ができたと感じています。また、特別講演とパネルディスカッションは地域色が出せたのではないかと感じています。ただ残念なことは、特別講演のスライドの配色がプロジェクターとPCの調整不足で十分でなかったことと、パネルディスカッションの討論の時間が十分に確保できなかったことです。なお、今年度、以下の2点が新たに試みられました。

1. 日本電気協会新聞部(電気新聞)主催のエネルギー教育賞の受賞校に対する報告会と学会からの表彰に関するセッションの開催

2. 企業との連携強化と教員研修制度の充実
これらは、2/13に開催された学会理事会からの打診を受けて、1については7/30(1日目)の午前のセッションとして開催されました。また、2については7/30に非公式な開催となりましたが、電気事業連合会の協力により、第6回次世代層向けエネルギー環境教育セミナーが24名の参加者を得て、長崎市環境教育研修が13名の参加者を得て、同会場で開催されました。

○本大会の課題

今大会の最大の課題は、新たな試み1の活動について、学会事務局と実行委員会の事務調整不足により、受賞校への出席打診・調整が遅れ、参加頂けた学校が3校中2校となったことです。また、基調講演者への連絡も遅れ気味でした。この対応策としては、学会本部（事務局含む）と実行委員会の役割分担の明確化と実行委員会によるスケジュール管理が重要です。なお、今回の受賞校報告・表彰セッションについては、日本電気協会新聞部（電気新聞）の協力により、論文集へ関連実践概要を掲載することができました。

学会運営については、実行委員長等の都合により、例年より1週間早い開催日となったために、学校教員の方には参加し難い日程となってしまったのではないのでしょうか。しかし、某テレビ局のドラマの効果もあり参加者が思ったほど落ち込みませんでした。これにより、経費については、広告企業の新規開拓

や事務局・会計による経費節減と相まって、例年通りの収支が見込めそうです。見学会や懇親会についても、関係機関の協力により盛況だったと思います。今回の大会では、会員のみならず多くの非会員の方々にご協力を頂きました。ご協力頂いた方々は皆さん学会の必要性を感じていましたが、入会には至りませんでした。そのような方々に入ってもらえる学会にするためには何が必要か十分議論することが必要です。また、小規模の運営委員会でも開催できるように、全国大会開催支援システム（Webによる参加・発表登録、論文の受付など）の作成も必要と考えられます。次年度は山梨大学で開催されるとのこと、長崎と同じ小規模スタッフでの運営が想定されますので、近隣の方々の支えが必要と思われます。是非この機会に、新たなネットワークづくりを進めて頂ければと思います。

エネルギー環境教育学会は、まさにその中核とならねばならない。



ワークショップの様子



見学会（端島）の様子

エネルギー環境教育の動向紹介（2010年）

2010年は、新教育課程の完全実施を直前にして、学校教育においてはその準備のために重要な年となったはずです。新教育課程においては、持続可能な社会の構築を目指した教育が求められており、エネルギー環境教育がそのために重要な役割を果たさなければならないことはいままでもありません。

2010年はエネルギー環境教育を取り巻く社会状況にもいろいろな動きがあった年ですので、学会の動向とともにその動きを紹介しておきたいと思います。

○学会誌『エネルギー環境教育研究』

Vol.4-No.2 及び Vol.5-No.1 の発行

Vol.4-No.2では、二つの研究論文と八つの実践報告が、Vol.5-No.1では、特集「おもしろ授業」で11の論文及び二つの研究論文と六つの実践報告がそれぞれ掲載されました。研究の範囲や深さといった点で、エネルギー環境教育の進展が伺えます。

○第5回全国大会の開催

2010年7月31日から8月2日の三日間、長崎大学教育学部において、第5回の全国大会が開催されました。質の高い研究発表が行われました。

○日欧教育フォーラム「今こそ“エネルギー環境教育”」の開催

2010年7月22日（日）東京渋谷の国連大学ウ・タント国際会議場にて、フランスとスウェーデンの教師を招いて、海外のエネルギー環境教育の取り組みを紹介しながら、これからの日本におけるエネルギー環境教育のあ

り方について討議しました。

本学会はこのフォーラムを共催しました。そのときの様子は、学会誌『エネルギー環境教育研究』Vol.5-No.1で報告するとともに、添付のDVDにて映像も見られるようにしましたので、ぜひ、ご覧ください。また、電気事業連合会のWEBサイトでも映像は見ることができます。

○NHK 教育テレビにおける「今こそ“エネルギー環境教育”」の放映

2010年9月26日（日）18:00～19:00にNHK教育テレビの「TVシンポジウム」として、日欧教育フォーラムの第2部パネルディスカッションが全国放映されました。文部科学省の初等中等教育局教育課程課長（当時）も新教育課程におけるエネルギー環境教育の重要性を指摘しています。エネルギー環境教育が社会的にも注目されるようになりました。

○ビジネス週刊誌『Newsweek』にてエネルギー環境教育がカバーストーリーになる

ビジネス週刊誌 Newsweek（ニューズウィーク日本版）の2010年10.27号でエネルギー環境教育が大きく取り上げられました。

表紙に、「世界に広がるエネルギー教育」「最新レポート 持続可能な未来をつくる教室の革命が始まった」という見出しが大きく掲げられました。そのカバーストーリーとしては「子供がエネルギーの正しい知識と習慣を身に付ければ、大人の行動も変わる－世界中で新機軸のエネルギー教育が始まった」と紹介されています。記事では、「子供は未来の省

エネ大使」と「未来を左右するエネルギーと教育」という見出しのもと、イギリスやフランスなどの事情を紹介しています。

ビジネス誌でも、エネルギー環境教育が大きく取り上げられたことに注目すべきと考えます。それだけ社会の関心と注目が集まってきているということかと思えます。

○『原子力発電四季報』（電気事業連合会発行）にて「日本と欧州－エネルギー環境教育への取り組み」がシリーズ特集になる

第1回（秋号/2010）では、長洲南海男会長が、フランスの現状と日本の課題を述べています。第2回（冬号/2011）は、スウェーデンを取り上げます。

○婦人雑誌でもエネルギー環境教育が取り

上げられる

『婦人公論』（中央公論新社）の2011年1月22日号の新春特別座談会のテーマはエネルギー環境教育です。その中で脳科学者の茂木健一郎氏は「部分だけでなく、全体を見ることができるシステム思考を身につける教育をすべき」と述べ、エネルギー環境教育の重要性を指摘しています。

2010年は、エネルギー環境教育にとって、新教育課程における意識の喚起だけではなく、社会的な関心の喚起ということでも重要な年であったように思います。2011年はさらなる進展・発展を期待したいと思います。

（広報委員長 山下宏文）

学会運営の動向(2010年度)

2010年7月31日の第6回通常総会において承認された事業計画案に基づいて、各委員会等の活動を展開しています。

○事業戦略委員会

- ・エネルギー環境リテラシー概念の確立（合意形成）に向けた取り組み
- ・「エネルギー環境教育スタンダード」及び「総説」策定に向けた準備
- ・「エネルギー環境教育指導者養成及び資格認定制度」の検討

○企画調査委員会

- ・第6回全国大会（山梨大学）の企画に参画
- ・学会主催シンポジウム（2011.3.12）の企画
- ・「エネルギー環境教育スタンダード」及び

「総説」策定に向けた準備

○審査委員会

- ・学会誌の企画・編集・発行
- ・学会賞授与に向けた準備
- ・電気新聞「エネルギー教育賞」選定協力

○広報委員会

- ・ホームページの管理・運営
- ・ニュースレターの発行
- ・会員拡大への取り組み

○実践委員会

- ・カリキュラムや教材等の分析・検討
- ・関係機関との連携のあり方の検討

○選挙管理委員会

- ・2011年度～2013年度の役員選挙の準備

電気新聞第5回「エネルギー教育賞」入賞校のお知らせ

社団法人日本電気協会が発行する「電気新聞」の創刊100周年を記念して2006年に創設された「エネルギー教育賞」の第5回入賞校が11月に決定しました。この賞の選考に関しては、日本エネルギー環境教育学会が連携協力しています。最優秀賞受賞校には、本学会全国大会において、取り組みの報告をお願いする予定です。

<最優秀賞受賞校>

小学校の部

北海道札幌市立美香保小学校

中学校の部

徳島県立城ノ内中学校

高校・高専の部

鹿児島県立加治木工業高等学校

広島県呉市立長迫小学校

香川県さぬき市立多和小学校

愛媛大学教育学部附属小学校

中学校の部

秋田県大仙市立大曲南中学校

東京都千代田区立九段中等教育学校

山梨県甲州市立塩山中学校

福井大学教育地域科学部附属中学校

宮崎県宮崎市立生目南中学校

<優秀賞受賞校>

小学校の部

北海道札幌市立百合が原小学校

宮城県仙台市立貝森小学校

福島県郡山市立多田野小学校

福島県いわき市立小名浜第一小学校

群馬県高崎市立馬庭小学校

京都府長岡京市立長岡第四小学校

岡山県井原市立荏原小学校

高校・高専の部

岩手県立黒沢尻工業高等学校

国立富山高等専門学校

国立石川工業高等専門学校

兵庫県立北須磨高等学校

徳島県立貞光工業高等学校

ニュースレターの発行について

このニュースレターは、主に、学会運営や活動の状況・計画を会員のみなさまにお知らせすることを目的といたします。学会のホームページと合わせて、ご覧いただくとよいかと思えます。

なお、会員のみなさまからのご意見や研究紹介なども掲載できればと思えますので、その場合には事務局のメールアドレスに送信いただければと思えます。

事務局メールアドレス jaece@jaece.jp ホームページ <http://www.jaece.jp>